

2020年度 第3回10月阪大本番レベル模試地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。

② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。

② 下線の付け忘れは1点減点。

③ 指定用語不使用は1点減点。

④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はない。

② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。

③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。

④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。
- 5) [指定語句] は、文中のどこかで使用していれば減点しない。

(I) 配点 50 点

問1 15 点

低温のため樹林が発達しないツンドラは、現在は北極海の周辺に主に分布している。短い夏の間にはコケ類、地衣類等が育つため、冬でも雪をかき分けてそれらを餌にできるトナカイの遊牧が盛んである。そして、その肉や乳は食料、皮は衣服やテントの材料となる。また、アザラシ、オットセイ等の海獣の狩猟や、漁労も盛んである。

【加点ポイント】

i) ツンドラの分布について (2 点)

- ① 北極海周辺／シベリア (ロシア) 北部／北アメリカ北部
／グリーンランド南部／チリの最南部 →2 点

ii) ツンドラの植生について (5 点)

- ① 蘚苔類／コケ類 →2 点
- ② 地衣類／藻類に共生する菌類 →2 点
- ③ (①②は) 短い夏の間には育つ →1 点

iii) 伝統的な生業について (8 点)

- ① トナカイ (カリブー) の遊牧 →3 点
- ② 狩猟／漁労 (漁業) →3 点
- ③ その他

- ・トナカイの肉や乳は食料になる／トナカイの皮は衣服やテントの材料となる
- ・ツンドラ (コケ類, 地衣類) がトナカイの餌になる
- ・(狩猟の動物として) アザラシ／オットセイ／トナカイ (カリブー) ／セイウチ
- ・(漁労の魚種として) サケ・マス
- ・犬ぞりで狩猟を行う
- ・カヤック (アザラシの毛皮で作った小舟) で漁労をおこなう

→1つ1点 2点まで

問2 20点

エスチュアリは河川下流部の低地、フィヨルドは山岳氷河の侵食谷であるU字谷、リアス海岸の入り江は、山地を流れる河川の侵食谷であるV字谷が、海面上昇等により沈水してできた入り江である。いずれも波が穏やかで水深が深く、天然の良港となるが、後背地となる周囲の平野が広いエスチュアリの周辺には、大規模な港湾都市が発達する。一方、入り江に山地が迫るフィヨルドとリアス海岸は漁港が多く、湾内では養殖業等が営まれる。

【加点ポイント】

i) 形成過程について (9点)

- ① (エスチュアリは)「河川下流部の低地/河口」が「沈水/沈降」した →3点
- ② (フィヨルドは)「U字谷/山岳氷河の侵食谷」が「沈水/沈降」した →3点
- ③ (リアス海岸は)「V字谷/河川の侵食谷」が「沈水/沈降」した →3点

ii) 共通の特徴について (3点)

- ① 波が穏やか →1点
- ② 水深が深い →1点
- ③ 天然の良港となる →1点

ii) 周辺の間活動と集落立地について (8点)

- ① (エスチュアリは) 大きな港湾が発達する/貿易港が立地する →2点
- ② (①の背景) 後背地が広い/周囲が平野である →2点
- ③ (フィヨルドは) 漁港が発達/養殖業が発達/貿易港には発展しない →1点
- ④ (③の背景) 入り江に山地が迫る/後背地が狭い →1点
- ⑤ (リアス海岸は) 漁港が発達/養殖業が発達/貿易港には発展しない →1点
- ⑥ (⑤の背景) 入り江に山地が迫る/後背地が狭い →1点

問3 15点

夏季、太平洋側の岩手県と宮城県には、オホーツク海気団からやませと呼ばれる冷湿な局地風が吹き寄せる。よって、冷害が深刻化しやすい。一方、日本海側の秋田県と山形県は、やませや小笠原気団から吹く南東季節風が奥羽山脈を越えて下降気流となるため、フェーン現象が生じやすい。よって気温が上昇し、冷害が生じにくい。

【加点ポイント】

- ① (東北地方の夏の風) やませ/山背 →3点
- ② (①の特徴)・冷湿/冷たい →2点
 - ・オホーツク海気団から吹く/太平洋側から吹く/東風である →1点
- ③ (①は) 岩手県と宮城県に影響を及ぼす/太平洋側に影響を及ぼす →3点
- ④ 「日本海側/秋田県と山形県」は、「フェーン現象が起きる」 →3点
 - (※「気温が上がる」→2点 「やませの影響を受けない」→1点)
- ⑤ (④の理由)「やませ/季節風/太平洋側から吹く風」が
 - 「山脈を越えて吹く/下降気流となる」 →3点

(II) 配点 50 点

問1 15 点

レアメタルは埋蔵量が乏しいか、単体の抽出が技術的に難しい金属であるが、先端技術産業には不可欠な資源である。しかしながら、政情の不安定な産出国や資源を政治利用する産出国も多く、消費国は安定的な確保に苦慮し、日本は備蓄を行っている。また、内戦下で、武装勢力がレアメタルの鉱山を資金源とする事例も見られた。

【加点ポイント】

i) レアメタルの特徴と重要性について (6 点)

- ① (特徴) 埋蔵量が乏しい／抽出が難しい →3 点
- ② (重要性) 先端技術産業に不可欠／半導体・超電導材・特殊合金などに利用 →3 点

ii) 消費地・産地での問題点 (9 点)

- ・安定的な確保が難しい／安定供給のために備蓄が必要
 - ・資源が政治利用される
 - ・政情不安な産出地が多い／産地は内戦・民族紛争が多い
 - ・レアメタルが武装勢力の資金源となる／鉱山が紛争の要因となる
- } 1つ3点
9点まで

問2 15 点

第一次石油危機後の輸送費と原燃料費の高騰は、太平洋ベルトで盛んであった鉄鋼業、造船等の重厚長大産業を斜陽化させた。その後、軽薄短小産業であるハイテク産業や高い技術力を持つ自動車産業が基幹産業となるが、輸出産業にとって不利な円高が進行するとこれらの生産拠点が海外へ流出し、国内では産業の空洞化が進んだ。

【加点ポイント】(★合計が15点を超えない)

i) 第一次石油危機の影響について (9 点)

- ① 鉄鋼業・造船業などの衰退／重厚長大産業の斜陽化 →3 点
- ② (①の理由) 輸送費の高騰／原燃料費の高騰／原油の高騰 →3 点
- ③ 軽薄短小産業の発展／ハイテク産業(半導体工業・IT産業など)の発展
／自動車産業の発展／加工組立型工業の発展／機械工業の進展 →3 点

ii) 円高の影響 (6 点)

- ① 生産拠点の海外流出／海外生産の増加 →3 点
- ② (①の理由) 輸出に不利／為替差損の回避／相対的に生産コストが増加 →2 点
- ③ (①により) 産業の空洞化が進んだ →1 点

iii) その他 (2 点)

- ① 東北や九州などの地方でも工業が発展した →2 点

問3 20点

大企業が重化学工業の発展を牽引した北部は所得水準が高く、イタリア経済の中心地である。一方、農業中心の南部は所得水準が低く、格差是正のためにタラントに鉄鋼コンビナートが建設されるなどしたが、格差解消には至っていない。第3のイタリアは、北部と南部のいずれとも性格が異なり、服飾、皮革、家具等の伝統工業が盛んである。この地域では、中小企業や職人によって高級品を生産するための高い技術が継承され、繁栄している。

【加点ポイント】

i) 北部について (6点)

- ① 重化学工業が発展／工業化が早期から進んだ／最も工業化が進む →3点
- ② 国内経済の中心地である／青いバナナに含まれる／経済首都と呼ばれる
／国内で経済が最も発展している／所得水準が高い →3点

ii) 南部について (8点)

- ① 農業中心である／大土地所有制が残る →2点
- ② 経済水準が低い／所得水準が低い →2点
- ③ 鉄鋼コンビナート(製鉄所)が建設された →1点
- ④ (③の背景) 格差是正のため／バノーニ計画による／国家の資本による →1点
- ⑤ (③の場所) タラント／ターラント →2点

iii) 第3のイタリアについて (6点)

- ① 伝統工業が盛ん／服飾、皮革、宝飾、家具等を生産する →2点
- ② (①は) 中小企業が多い／職人技術が継承されている／高級品の生産が多い
／職人技術と先端技術を結び付けている／多品種少量生産である →2点
- ③ 経済が繁栄している／経済が発展した／北部と南部のいずれとも性格が異なる
→2点